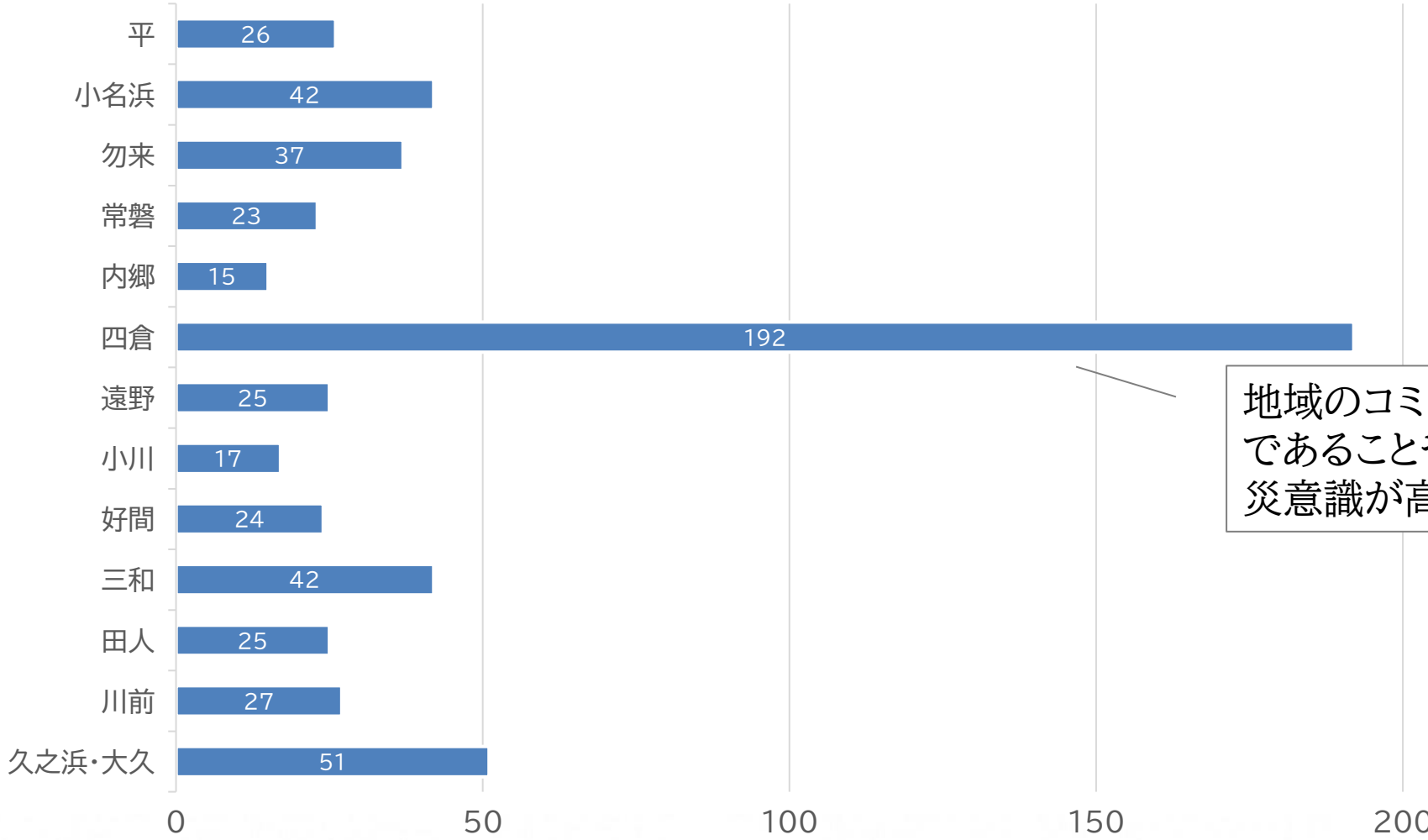
令和6年度総合防災訓練【地震・津波編】
【市民アンケート調査結果】

1　アンケート対象者
　災対各地区本部主催の訓練に参加した市民　　872名
2　アンケート回答数
　547名

（参考）市総合防災訓練【地震・津波編】参加者総数　1,565人
※　錦東小学校の参加者を除く人数

1. 地区別アンケート回収数（n＝547※）

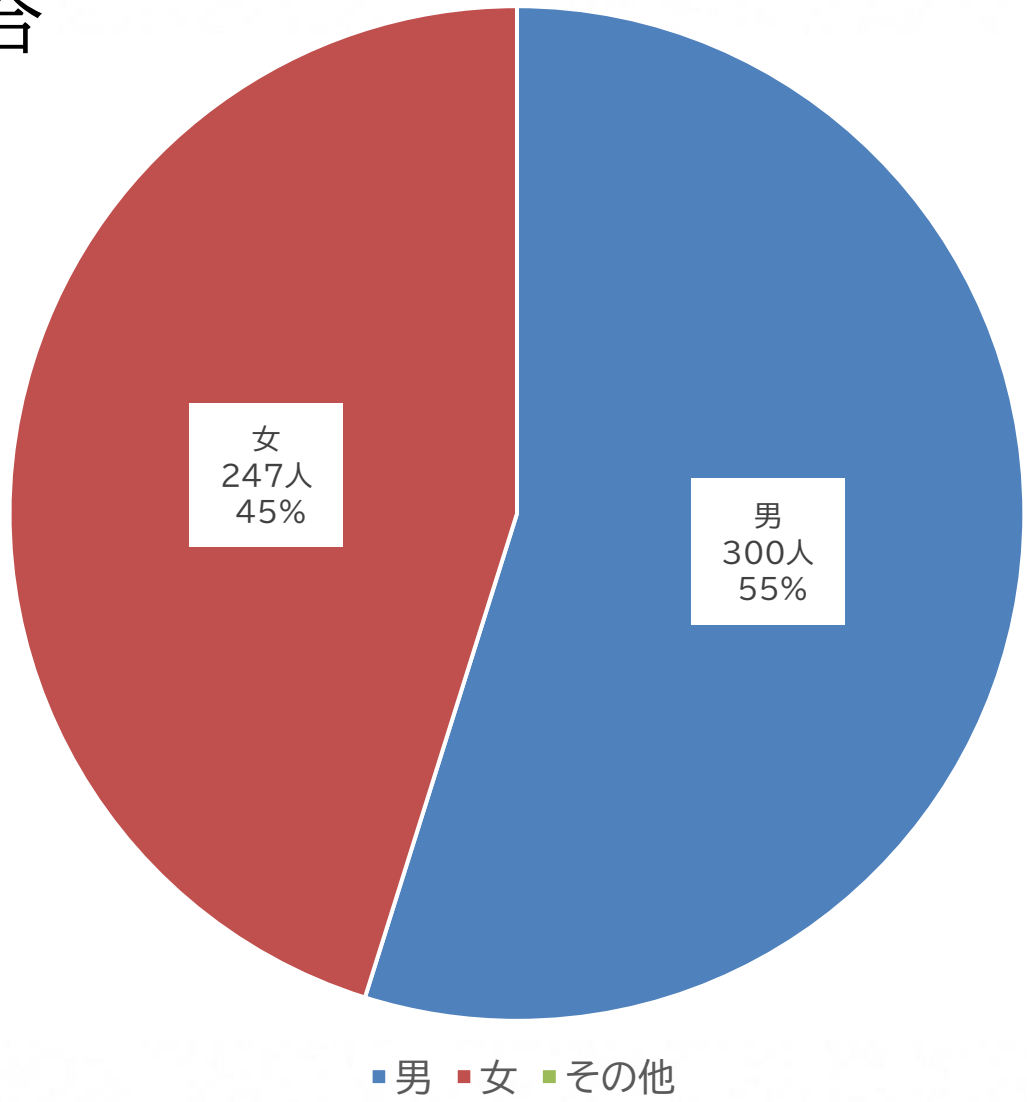


地域のコミニティ（繋がり）が盛んであることや市街が沿岸に近く防災意識が高い地区であるため

※ 参加地区の未回答者が1名

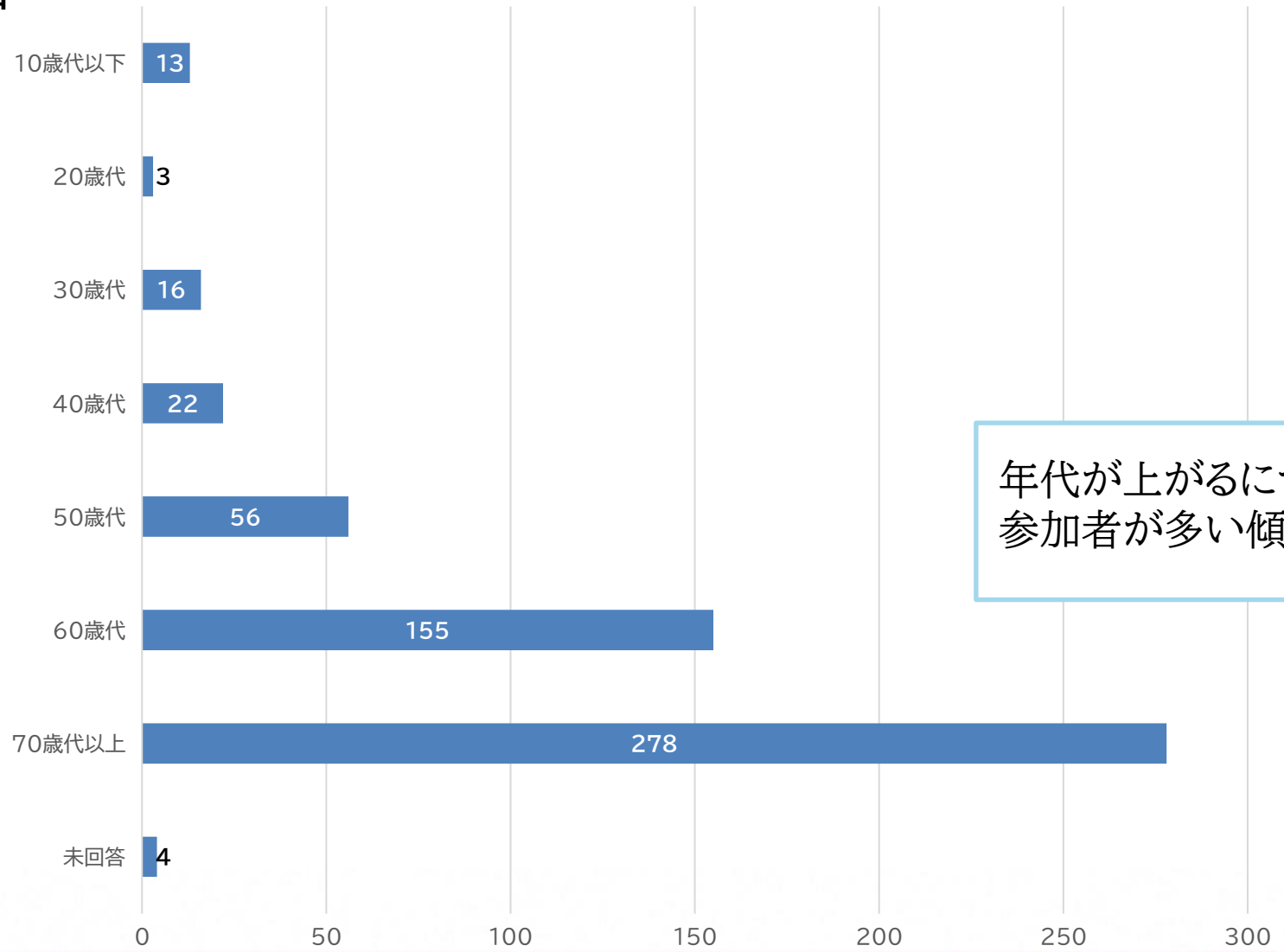
2. 男女比の割合

性　　別	数
男　　性	300
女　　性	247
そ の 他	0
合　　計	547



3. 年代構成割合

年　代	数
10歳代以下	13
２０歳代	3
３０歳代	16
４０歳代	22
５０歳代	56
６０歳代	155
70歳代以上	278
未 回 答	4
合　　計	547

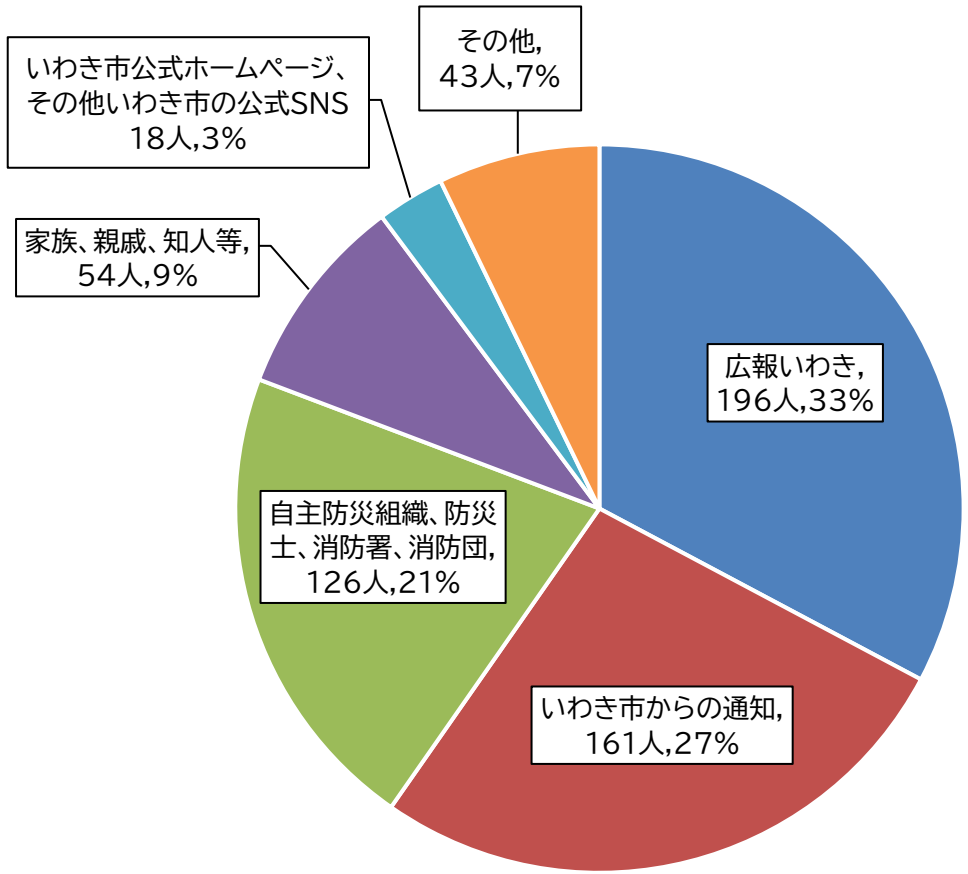


年代が上がるにつれて
参加者が多い傾向にある

4. 訓練に参加できると知った方法（複数回答可）

理　　由	数
広　報　い　わ　き	196
いわき市からの通知※	161
自主防災組織、防災士 消　防　署　、　消　防　団	126
家族、親戚、知人等	54
いわき市公式ホームページ、その他いわき市の公式ＳＮＳ	18
そ　の　他	43
合　　計	598

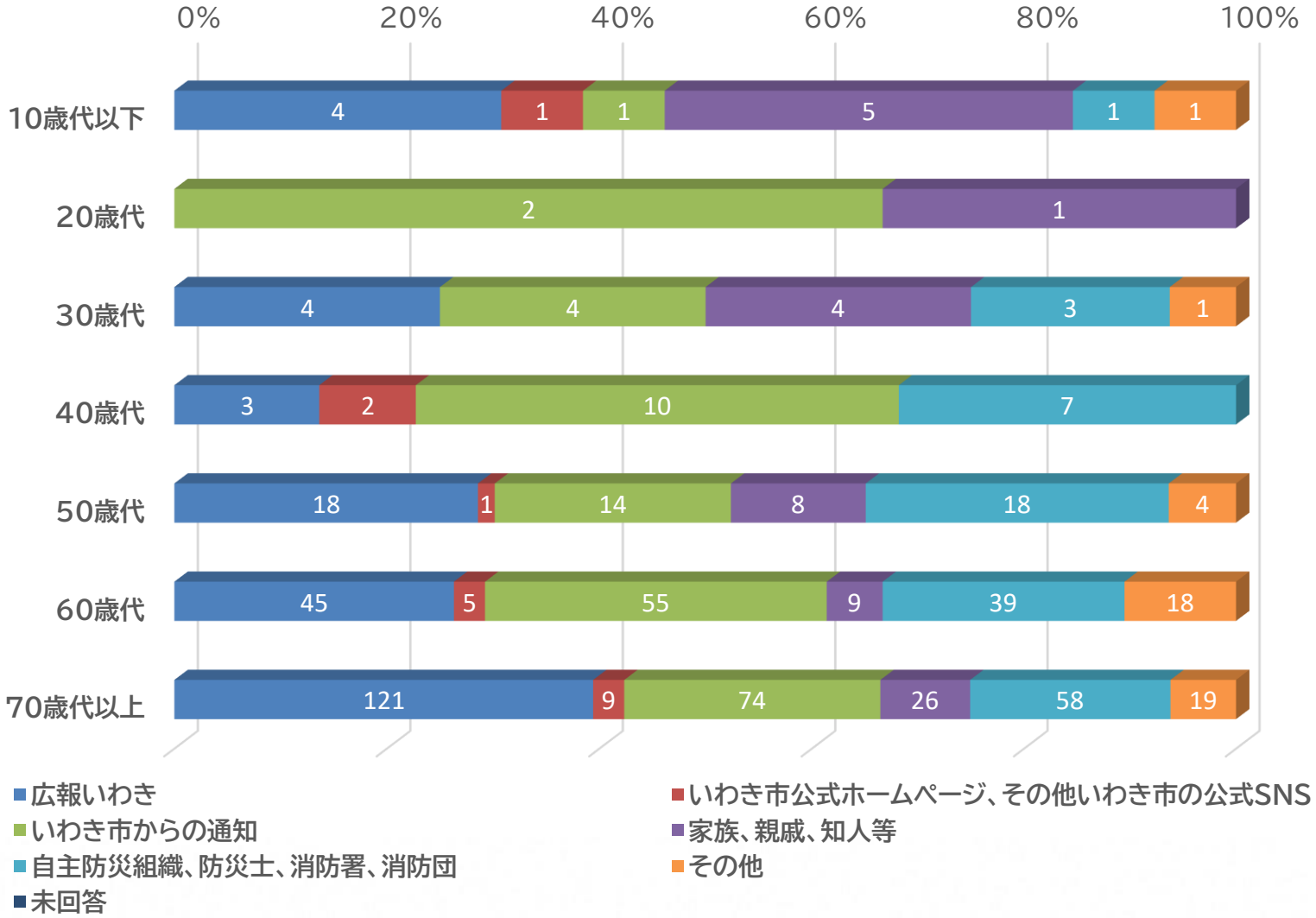
※「いわき市からの通知」は主に支所から実施する地区の自主防災組織に対する協力依頼を指します



※「その他」として、次の方法で訓練に参加できると知ったとの回答があった。
- ○　自治会又は自治会長の声掛け
- ○　回覧板
- ○　女性消防クラブの声掛け
- ○　サイレン放送
- ○　勤務先の声掛け

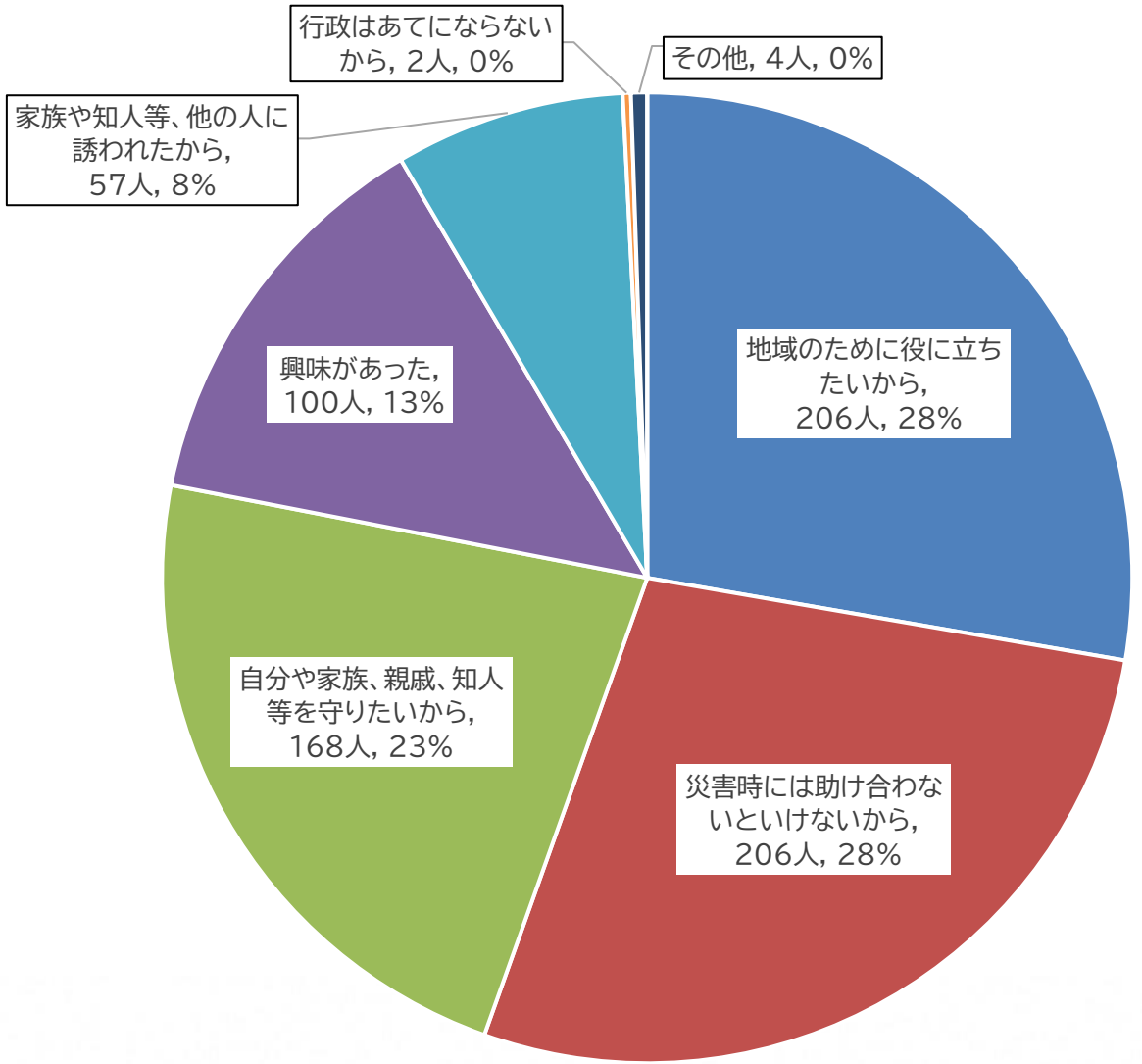
「広報いわき」、「いわき市からの通知」、「自主防災組織、防災士、消防署、消防団」の上位3項目で約8割の周知に繋がっている

4-1.（年齢別）訓練に参加できると知った方法（複数回答可）



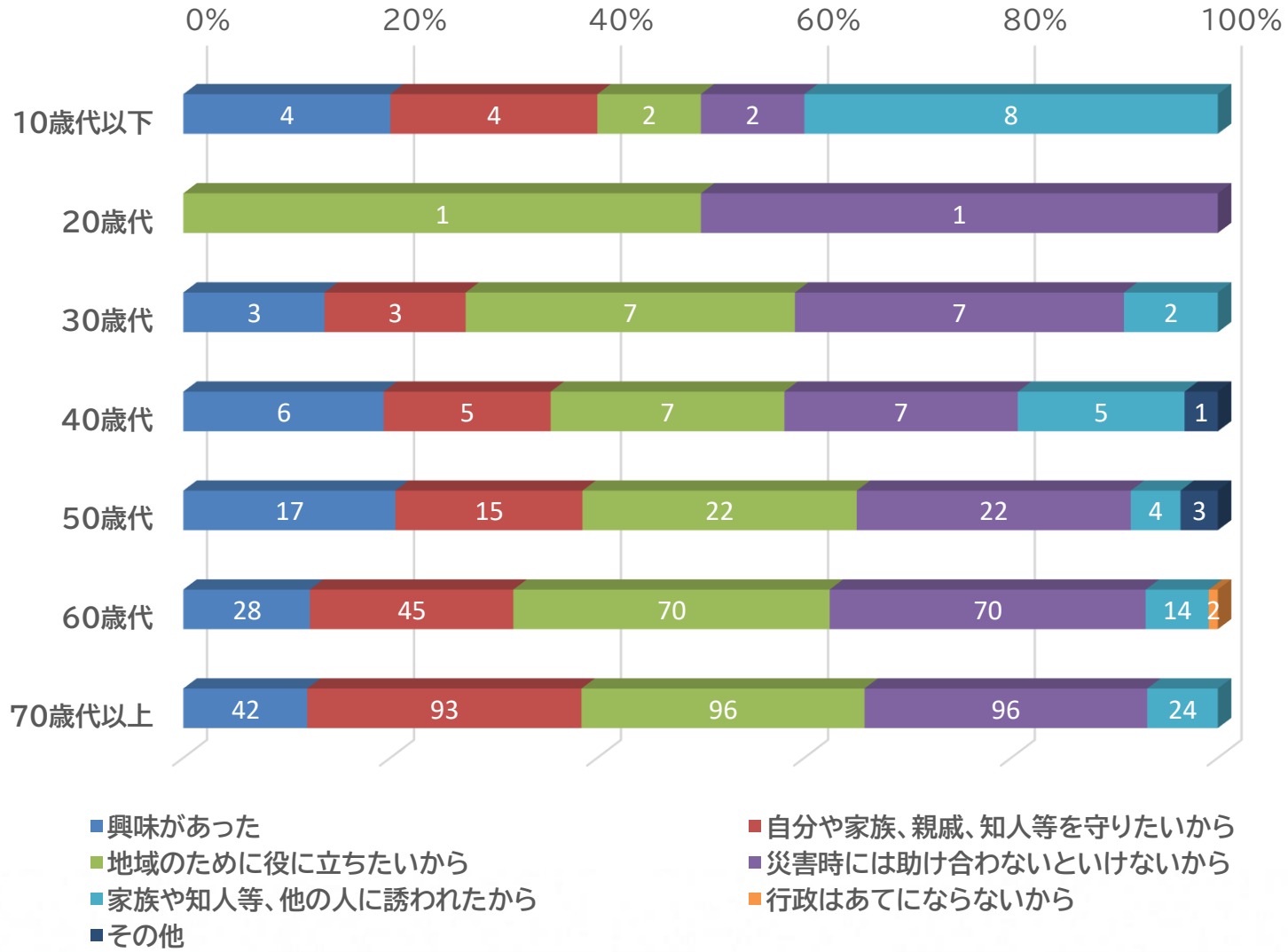
5. 訓練に参加した理由（複数回答可）

理　由	数
地域のために役に立ちたいから	206
災害時には助け合わないといけないから	206
自分や家族、親戚、知人等を守りたいから	168
興味があった	100
家族や知人等、他の人に誘われたから	57
行政はあてにならないから	2
そ の 他	4
合　　計	743



「地域のために役に立ちたいから」、「災害時には助け合わないといけないから」などが多くなっており、自助・共助の重要性への認識が高くなっている

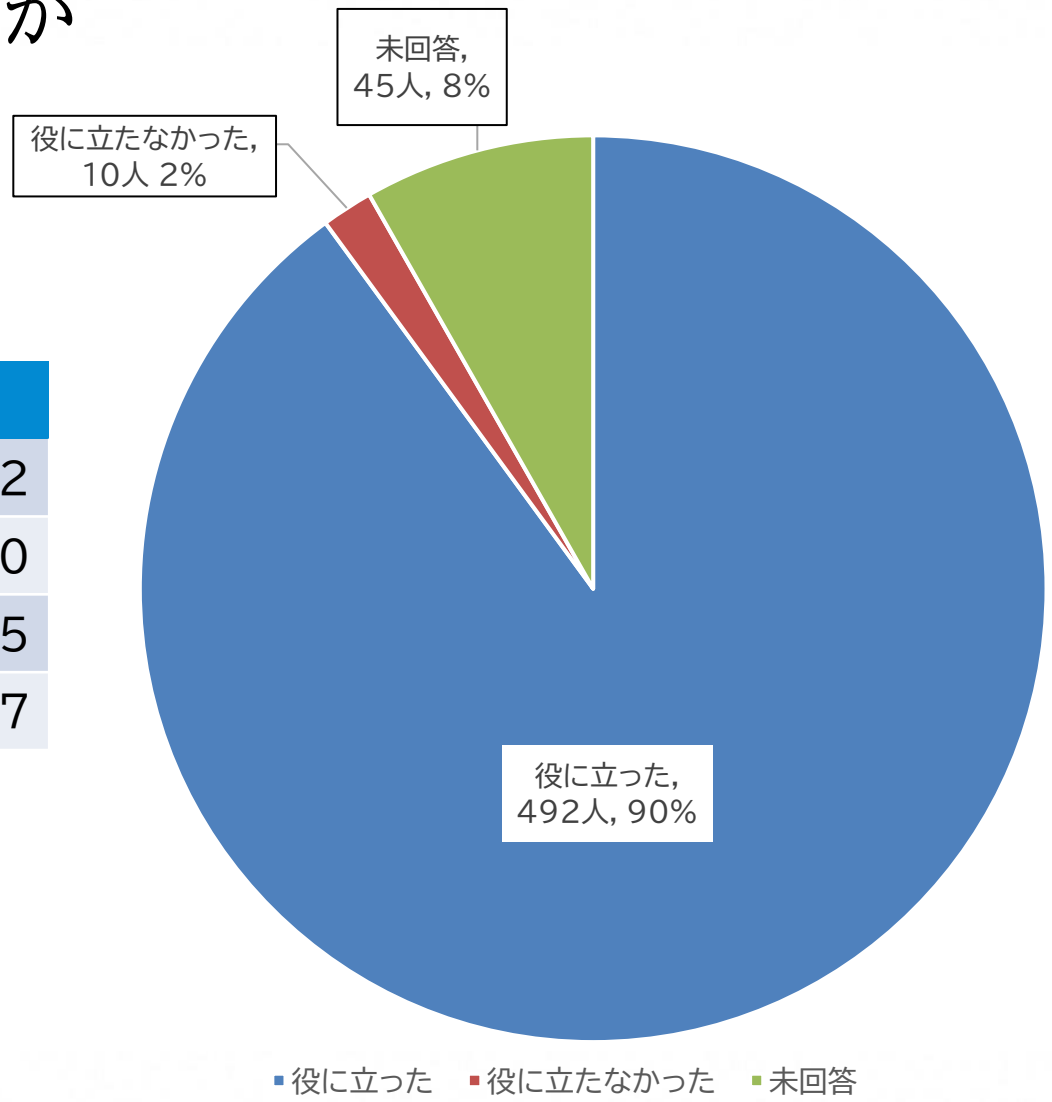
5-1.（年齢別）訓練に参加した理由（複数回答可）



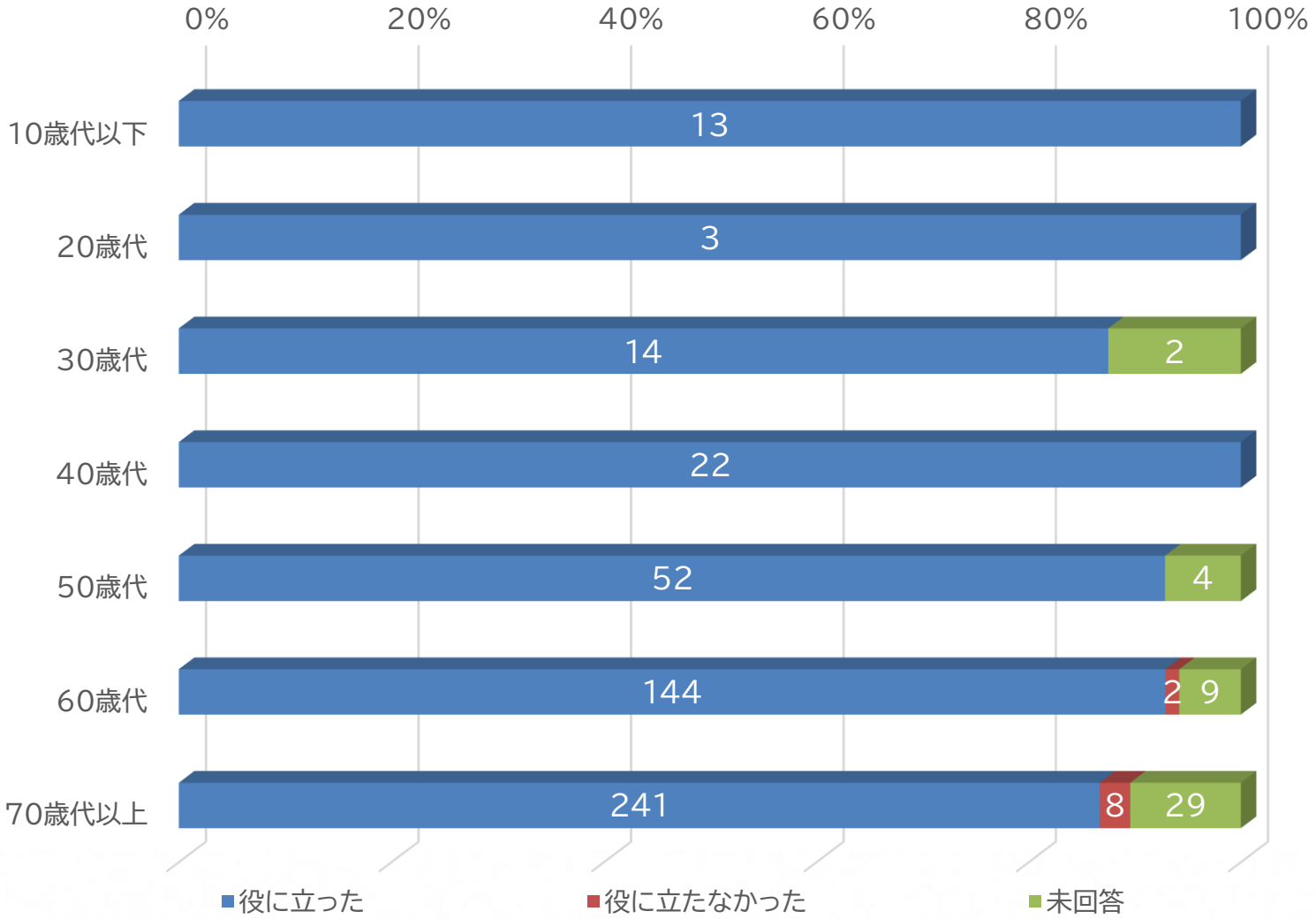
6. 訓練は役に立ったか

総合防災訓練について	結果
役に立った	492
役に立たなかった	10
未　回　答	45
合　計	547

訓練の必要性は大多数の人が感じている



6-1.（年齢別）訓練は役にたったか



6-2. 訓練が役に立った・立たなかった理由

役に立った点

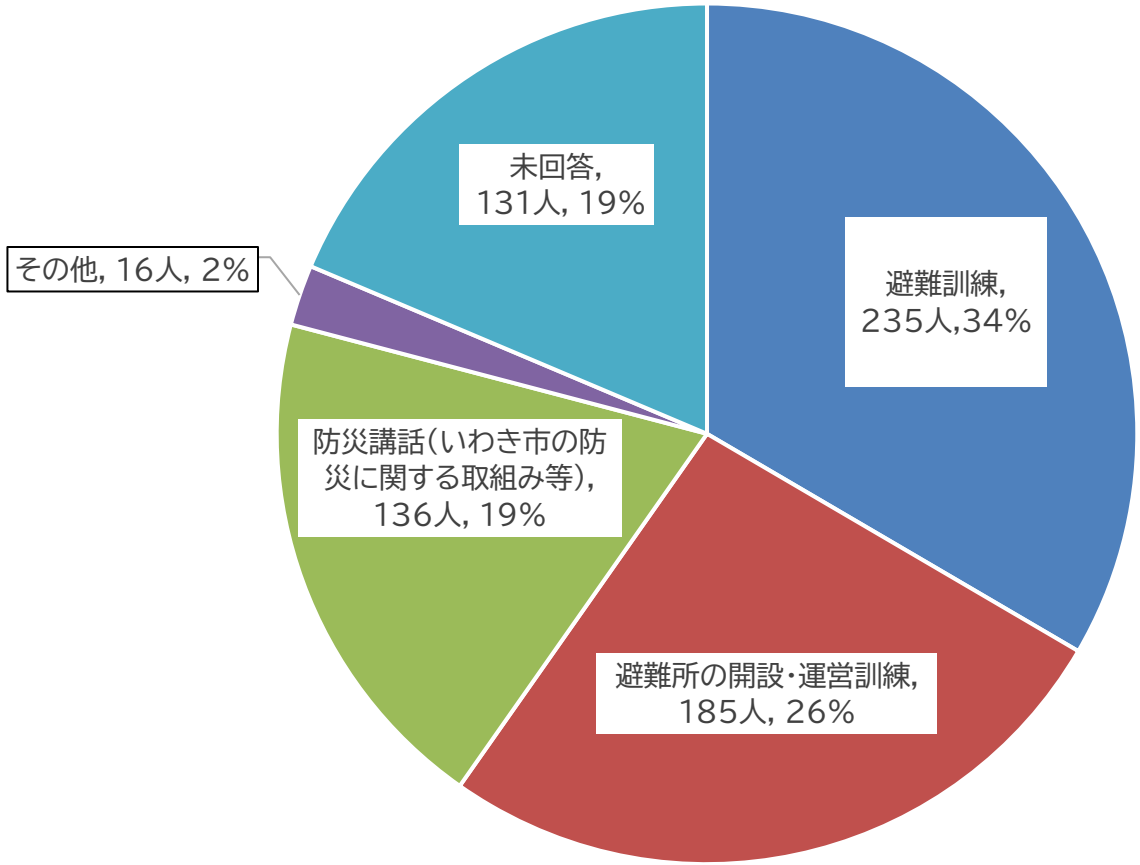
① 初めての参加なので、順路、避難先が分かって良かった。
② 身近な物を活用する方法が分かった
③ あわてず行動すると感じた。あと協力することが大事と思った。

改善が必要

① 参加者が少なかったです。時間が早いのではないかと思います
② マンネリ化している
③ 時間がかかってつかれてしまう

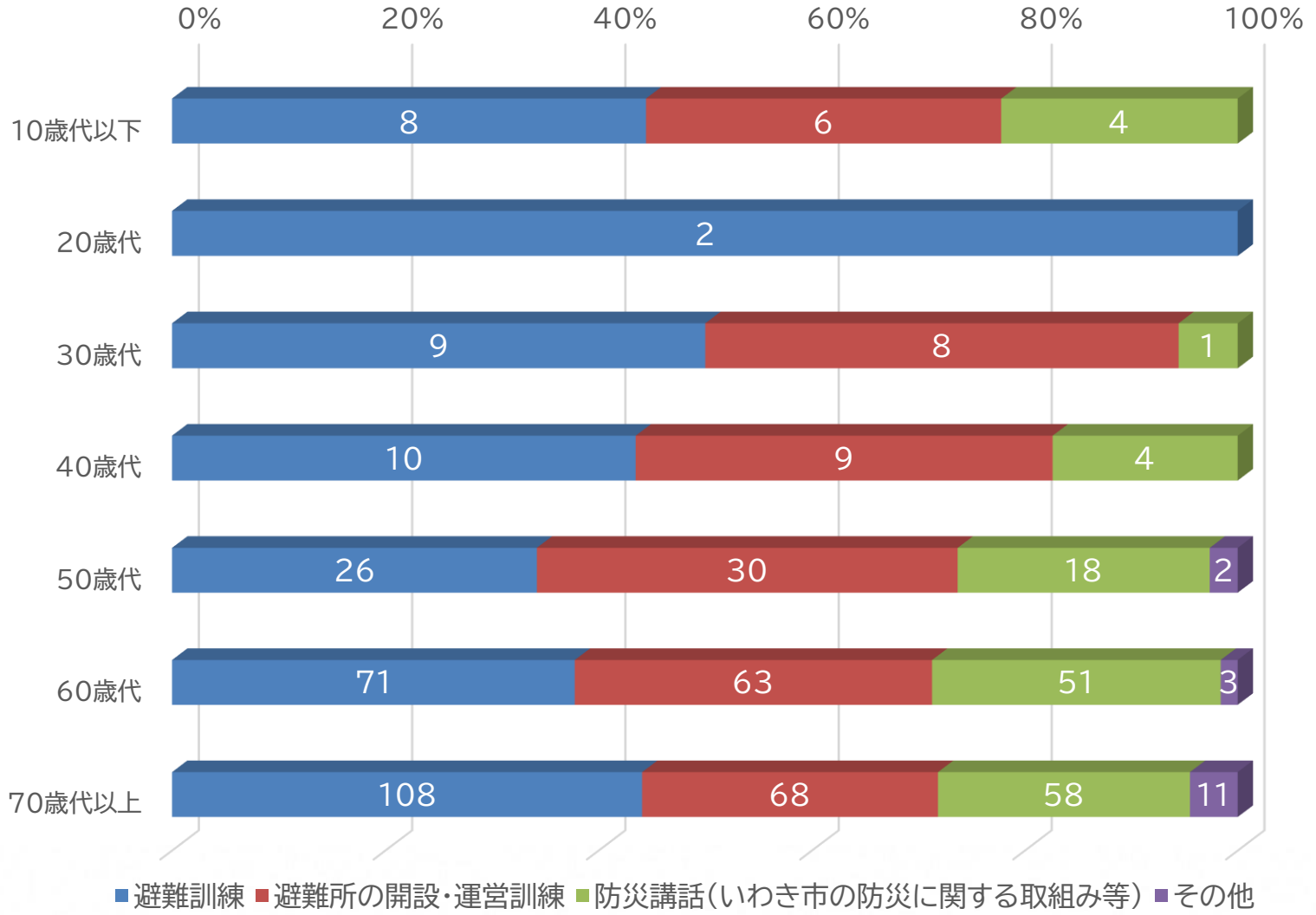
7. 今後取り組んでみたい訓練（複数回答可）

年　代	数
避難訓練	235
避難所の開設・運営訓練	185
防災講話（いわき市の防災に関する取組み等）	136
その他	16
未回答	131
合　　計	703



全体の約8割がいざというときに備えた身近な訓練を望んでいる

7-1.（年齢別）今後取り組んでみたい訓練



8. その他（訓練に参加して感じたこと）

役に立った点

① 担当者の説明が丁寧で分かりやすかった。
② 色々な体験ができてとても勉強になった。
③ 避難所の運営は、避難者同士の助け合いが重要だとわかった。
④ ブースそれぞれでの説明があり、子ども連れでも参加しやすかったです。
⑤ 関心がなかったので、防災について考えるきっかけになりました。 雰囲気がよかった。ありがとうございました。

改善が必要

① 防災行政無線が聞き取りにくい。
② 参加する人が少ない。
③ 若者が参加出来る様に考えて下さい。
④ 防災訓練に参加する若年層がとても少ない。
⑤ 受付時の避難確認表の文字が小さい。

アンケート結果から考えられること

・地区別アンケートについて

四倉地区のアンケート回答が多くなっている理由の1つとして、隣近所で声を掛け合い一時避難場所への避難のみの参加もできる身近な訓練となっていることが考えられる。

久之浜・大久地区のアンケート回収数が昨年度に比べ大きく増えており、（昨年37件、本年51件）企業との連携による訓練は市民への興味・関心に繋がると感じた。

・参加者の年代について

例年、年齢が若い程（特に30代以下）参加が少なくなる傾向にあり、若年層の参加を増やすためには、小中学校との連携を含め、楽しみながらできる訓練の計画なども必要と考えられる。

・訓練の周知について

本年度は「広報いわき」により知った方が最も多くなっていたため、広報誌を活かした更なる周知を図っていきたい。